



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

Global View

2019 年 3 月 15 日 Newsletter 第 55 号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部

「創立 125 周年を迎えて」

平岡 静香(社会科・宗教科)

今年度、仙台白百合学園は創立 125 周年を迎えました。6 月 30 日には、レジナパーチスホールにて、創立 125 周年記念式典が行われ、国内外から多くの方々がお祝いに駆けつけてくださいました。仙台白百合学園は 1893 年にシャルトル聖パウロ修道女会のマスールによって「私立仙台女学校」として開設されたのが始まりです。私は、この記念すべき年に、長年の夢であった修道女会のルーツを辿る旅にでかけることにしました。



シャルトル聖パウロ修道女会の発祥の地は、フランスのルヴェヴィール＝ラ＝シュナールです。私の手元には十分な情報量がなかったため、まずはシャルトルにある修道院を訪ねることにしました。首都パリから南西 95km 地点にあるシャルトルを目指して電車で揺られること 1 時間。街の中心にそびえ立つ聖堂は、駅から歩いて 10 分程の場所にありました。聖堂の中に入ると、そこには夕の祈りを終えたばかりの神父様と信徒のお姿がありました。私は修道会が経営するカトリック学校で教員をしていることを伝えた上で、修道院の場所を尋ねると、徒歩圏内にあるとのことと案内をしていただくことになりました。歩くこと 10 分、修道院にはかつて仙台白百合学園幼稚園で園長先生をされていたマスール米島幸子先生がいらっしゃいました。突然の訪問にもかかわらず、温かく迎え入れてくださり、ルヴェヴィールを案内していただくことになりました。シャルトル市からさらに南東へ 35km、夢にみたルヴェヴィールは一体どのような場所なのかと移動中の車中で想像をめぐらしていると、まさにレジナパーチスホールの緞帳に描かれた麦畑の景色が目飛び込んできました。私は、マスール米島やベトナムのマスールによって修道会の歴史を詳しく教えていただくことができました。

修道女会の活動は、1694 年に主任司祭としてこの村に派遣されてきたルイ＝ショーヴェ神父様の貧困にあえぐ村の人々を励ましたいという呼びかけに始まりました。協力を申し出た娘たちが教会に集まり、共同生活を営みながら、子どもたちの教育や病人の看護などの奉仕活動を行いました。娘たちは子どもたちへの日課を終えると、心をこめてつくったスープを持って病者を訪問していました。ルイ＝ショーヴェ神父様は若くして この世を去りますが、遺言書の中には、「学校のよい教師を育てるために貧しい娘たちを集めた。私がした普通の愛徳を貧しい人びとに対して続けていくように。」と記されています。娘たちの献身的な活動に対する評判はシャルトルの司教まで届きました。さらには、国内外からの要請を受けるようになり、現在では 40 か国で活動を行っています。

現在、「グローバル」という言葉が頻繁に飛び交っていますが、白百合学園の経営母体であるシャルトル聖パウロ修道女会は、300 年以上も前から、国や宗教、人種を越えて、愛の奉仕を行ってきました。白百合学園に集う皆さんは、想像している以上に大きなネットワークの中にいます。仙台白百合学園のさらなる発展、深化を目指して、まもなく始まる 126 周年を共に迎えましょう！

